

会議録

| | | | |
|--------------------|---|------|---|
| 会議名 (審議会等名) | 相模原市南区区民会議 | | |
| 事務局 (担当課) | 南区役所区政策課 電話042-749-2134 (直通) | | |
| 開催日時 | 令和7年11月21日～令和8年1月5日 ※書面開催 | | |
| 回答者 | 21人 (別紙のとおり) | | |
| 公開の可否 | <input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可 | 傍聴者数 | — |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | <p>議題1 無作為抽出型区民討議会(案)について</p> <p>議題2 南区基本計画に示す取組目標の進捗について</p> | | |

審議経過

(審議を書面で行った理由)

令和7年11月12日(水)に開催を予定していた標記会議につきまして、参加者数が南区区民会議規則第4条第2項の会議成立要件の過半数に満たなかったため、今般の会議は書面による開催へと変更した。

主な内容は、次のとおり。

議題1 無作為抽出型区民討議会(案)について

各委員から特段意見はなく、賛成多数で承認されたため、原案のとおり実施することになった。

議題2 南区基本計画に示す取組目標の進捗について(○は委員の意見)

- 公民館やユニコムなど成人向けの社会教育の充実を一層はかり、人づくりにもっと力を入れるべき。(中村 洋子委員)
- 人は誰かの役に立ちたいと思っており、周囲からの依頼や声かけ後押しで、まちづくりに関わっていただけるようになる。(中村 洋子委員)
- 人のつながりを大切にする行政姿勢も大切と思う。(中村 洋子委員)
- 地域共生社会の在り方検討会議(第4回)令和6年9月30日付の報告書にある、2040年問題(人口減少関係)からの地域コミュニティの多様な事業主体の連携及び協働の推進。という視点が必要ではないでしょうか。(伊藤委員)
- 基本計画で、取り組み6つの目標を定め令和9年度まで具体策(無作為抽出型区民討議会)の意見を参考にしながらまとめていくと思いますが、少子高齢化、2050年問題等で益々、若者と高齢者のつながり支え合いが深刻、重要な取り組み課題だと思います。地域の自治会の加入推進活動、福祉事業での様々な高齢者の見守り活動を各地区で行っています。(中村 明委員)
- 6つの取り組みは、どの地区でも目標、実施していきたい取り組みだと思います。現状では、ネックになるのが、実施していく人、リーダーになる人のマンパワー不足が一番の問題で

す。皆さん意見や要望は出しますが、それを取りまとめ、実施する人がいつの時代もいません。特に今後の超高齢化社会を少子化社会の繋がりをどの様にしていくのか、細かな検討が必要です。2月22日の無作為抽出型区民討議会の意見に期待します。(中村 明委員)

- 私は相模大野に在住ですので相模大野駅近辺で、例えばステーションスクエアとコラボしてストリートピアノを設置したり、ポーノ相模大野内のアンテナショップにて相模原の魅力を発信したりとシティプロモーションを行っているのをよく目にします。また、伊勢丹跡地のマンションの建設もすすみ、中央公園の整備も進められ駅近辺のさらなる発展が見込まれ楽しみにしております。その一方主要な駅から少し離れた地域はこれらの発展からあまり恩恵を受けられない場所もあるのではないかと危惧しております。同じ南区内で分断が起きないように、目につきやすい地域や場所だけに注視するのではなく、区民全体が受益できるようなまちづくりを忘れないようにしていきたいと感じました。(渡辺委員)
- 相模原市内の地域活動はシニアが中心になっているケースが多く、私が活動する団体に参加する学生の多くは市外在住者です。あくまで個人的な意見ですが、若い人達が参加しない理由の1つにサポセンの動きが関係しているように感じられ、サポセンが若い人々に向けて情報発信を強化していったり、若者に役立つノウハウを提供していったりしたら、今より多くの若い世代が活動したくなるように感じます。(遠木委員)
- 「大学との連携による地域づくり」では学生参加型の事業や大学と協働での事業ができないかを今後検討すべきでしょう。

例1) 北里大学では JKK 東京との連携によって、町田の団地に学生を入居させ、コミュニティの一翼を担ってもらっており、地域から大変好評を受けています。市営住宅等は入居要件があるので、すぐに学生を入居させることはできないと思いますが、今後人口減少で空き部屋が増えることも予測されるので、市が働きかけることが可能な住宅については、安く入居できる代わりに地域活動を学生に担ってもらうような仕組みを検討してはいかがでしょうか。各大学も全面的に協力するはずですが。

例2) ユニコムプラザなどの施設を活用した学生活動の支援。各大学には音楽や大道芸、よさこいなどのクラブがありますが、その発表の場として施設等を活用できないでしょうか。これらのクラブは各地の祭り等に参加し、盛り上げに一役買っています。コロナ禍以

前は様々な施策があったと思いますので、ぜひご検討願いたい。区は異なりますが、博物館等の施設を利用した活動も学生を巻き込んでやれば活性化につながると思います。区にこだわらず全市的な活動につなげて頂ければと考えています。

例3) さがまちコンソーシアムとは別に、相模原・町田地域大学間連携プラットフォームがありますが、ここでも地域を巻き込んだ事業の展開を計画中です。2026年3月18日(水)には防災シンポジウムを青山学院大学相模原キャンパスで開催する予定で、現在具体的内容等を作成中です。相模原市にも参加を打診していますが、区民会議メンバーのような地域の中心の方々に参加していただければ非常に心強い限りです。(朝日田委員)

- 議論の内容は、どれも抽象的に感じる。具体的なものは見えない気がします。愛着は、関わった体験やその回数に比例すると思います。(嶋村委員)
- 地域でのまちづくり会議で地元の課題等話し合っておりますが、年齢別で言うと高齢の方がほとんどで20代・30代をもっとメンバーに入れて意見を聞いていく枠組で実施していけないか? 5年後10年後の街のイメージを考える切っ掛けになればと思います。

(小池委員)

- 本筋と少し逸れる部分はありますが、区民討議会の設計に関しては、より議論したい部分であると感じております。「区がいきいきと活動する」ことを引き出すのであれば、形式上でも「参加した区民の声が市政に反映される」という感覚を生み出す必要があります。若年層への働きかけもタイトルだけではない工夫が必要と感じます。ぜひ一度意見交換をさせていただければと思います。(松本委員)

別紙

相模原市南区区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

| | 氏名 | 所属等 | 備考 | 出欠席 |
|----|--------|--|-----|-----|
| 1 | 田村 小次郎 | 大野中地区まちづくり会議 | | 出席 |
| 2 | 中村 洋子 | 大野南地区まちづくり会議 | | 出席 |
| 3 | 伊藤 信裕 | 麻溝地区まちづくり会議 | | 出席 |
| 4 | 鈴木 真司 | 新磯地区まちづくり会議 | | 出席 |
| 5 | 中村 明 | 相模台地区まちづくり会議 | | 出席 |
| 6 | 浅田 聡 | 相武台地区まちづくり会議 | | 出席 |
| 7 | 田村 久司 | 東林地区まちづくり会議 | 副会長 | 出席 |
| 8 | 鈴木 貴市 | 相模原南交通安全協会 | | 欠席 |
| 9 | 佐田 昌史 | 相模原市民生委員児童委員協議会 | | 出席 |
| 10 | 草薙 喜義 | 相模原市社会福祉法人経営者協議会 | | 欠席 |
| 11 | 渋谷 典彦 | 相模原市22地区社会福祉協議会南区連絡会 | | 出席 |
| 12 | 渡辺 美帆 | 子育て応援団With | | 出席 |
| 13 | 大西 麻衣 | 相模原商工会議所 | | 出席 |
| 14 | 姫野 大輔 | 相模原青年会議所 | | 欠席 |
| 15 | 後藤 弘幸 | 相模原市民文化財団 | | 出席 |
| 16 | 遠木 ナオ | チームユニバース運営委員会 | | 出席 |
| 17 | 井坂 聡 | 相模女子大学人間社会学部 | 会長 | 出席 |
| 18 | 藤田 百合 | 女子美術大学芸術学部 | | 出席 |
| 19 | 朝日田 卓 | 北里大学 地域連携室 | | 出席 |
| 20 | 小池 清史 | 公募委員 | | 出席 |
| 21 | 嶋村 裕子 | 公募委員 | | 出席 |
| 22 | 松本 圭介 | 公益財団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム (市民・大学交流センター) | | 出席 |
| 23 | 隈本 光 | 南区若者参加プロジェクト実行委員会 | | 出席 |
| 24 | 西生 篤 | ジェイコム湘南・神奈川 相模原・大和局 | | 出席 |